

磐田 NPO 交流センター通信

- 磐田 NPO 交流センター通信 第3号 平成14年3月15日発行
- 発行者／磐田市総務部地域振興課 〒438-8650 磐田市国府台3-1 TEL(0538)37-4811
- 編集／磐田 NPO 活動推進協議会 〒438-0078 磐田市中心街112-4 TEL(0538)36-1890

磐田 NPO 交流センタークリスマスフォーラム
『阪神・淡路大震災の体験から』
これからのまちづくりにむけて Part 2 が開催されました。

第一部 講演

磐田 NPO 交流センターの二〇〇一年最後の事業である「クリスマスフォーラム」が、十二月二十三日(日)に『阪神・淡路大震災の体験から』と題して、平成七年一月十七日に起きた阪神・淡路大震災の折にいち早く現地にボランティアセンターを開設し、復興に向けて大変なご苦労と体験をされた社会福祉法人大阪ボランティア協会の理事で事務局長でもある早瀬昇氏を迎えて開催されました。第一部では、早瀬昇氏の講演を聞き、第二部はディスカッションタイムとして活発な意見交換が行われました。第一部の講演では、持ち前の大阪人特有の抑揚と柔らかな笑いを交えた論調の中に、参加者四十人が真摯に受けとめるべき多くのメッセージを託され、一時間半の時間があったという間に経過しました。



体験から来る多くの問題とその解決方法は、近い将来発生する恐れがあるとされている『東海地震』に備えるべき多くの示唆に富んだ課題が示されました。その多くのメッセージの中から、いくつかを紹介いたします。

- 一、行政機構は、常に公正・公平を使命としているために、災害の全体像が把握できてはじめて機敏で機能的な対応ができる。今回の震災の折にも発生の直後、状況を把握するのに時間を要した。大切な事は、行政の担当者の多くも、同じ被災者であるということも忘れてはならない。
- 二、災害発生時より七十二時間は被災者である「あなた」とその「隣人」と「地域の人々」の自助努力が要求される。それは、倒壊家屋の下に埋もれた人の救出であり、傷病者の初期処置であり、搬送であること。
- 三、災害に遭遇してしまった時のボランティア活動を有効に機能させるためには、申し出のあったボランティアと現実の被災者からの要望とを結びつける仕組みを作る専門家が重要。そして被災地に救援のために集まってくるボランティアの人々を、差配する拠点(ボランティア職業安定所)作りが第一歩となる

こと。

- 四、救援物資について、被災地の必要性と供給を合致させる仕組みと情報のコントロールが大切になる。事例として、全国ネットのテレビ局が現地の被災者を取材した際に、ある母親が「紙おむつが足りなくて困っている」と言い、それを放送した結果、善意の救援物資(紙おむつ)が大量に届いた。救援物資は保管場所の確保、物資の整理、配布のための人員等、被災地にとって大変なエネルギーが必要となる。
- 五、ボランティアが災害の支援に現地まででかけて行くという活動は、阪神・淡路大震災が初めてのことであり、その時に経験した数多くの問題は、今後災害に遭遇する恐れがある地域にとつては大変重要な情報である。



第二部 ディスカッション

タイム

- 一、災害時に行政機関を素早く有効に機能させるためには、被災状況全容を一刻も早く把握すること。

- 二、日常の積み重ねこそ災害時に力を発揮する。アマチュア無線のグループもバイクボランティアも県外のボランティアグループとネットワーク化の活動を！と助言があった。
 - 三、避難所になっている学校等について、多層階になっているため高齢者、弱者にとっては必ずしも住みよいところではないこと。
 - 四、小学校では自校式で給食を提供しているが、現在センター方式が検討されている。仮にセンター方式を選んだとしても、被災時を視野に入れ給食設備は残した方がよいであろうこと。
 - 五、災害直後は誰にでもできる支援が求められているが、時の経過によって求められる支援も特別の知識や経験のある人にしかできないものに変わって行く。その変化に応じた支援体制を確保する必要があること。
 - 六、支援者は、被災者や被災地にどの程度の条件が整ったら撤収するのか、予め心積もりをする必要がある。
- 短い時間ではあったが参加者全員が真剣に聞き、多くのことを学び確認した。又、それ以上に早瀬氏の熱いボランティアな精神を感じたことと思う。それを伝えるために全国を行脚している講師の早瀬昇氏の姿は、さながら伝道者のようであった。もっと多くの市民に聞いて欲しかったというのが今回のフォーラムについての実感であり、反省でした。

市長と市内NPO実践者との懇談会

出席者

磐田市長 鈴木 望 さん

NPO法人「こどもの森」

副理事長 大角 恵子さん

NPO法人「ふれあい広場くすの木」

理事長 田中しず子さん

磐田NPO活動推進協議会

会長 飯田 好治



しやすい人数になつてきました。情報誌「いただきます、ごちそうさま」の発行や食育展などを通して、自分の力で健康を守るような子どもたちを育てていきたいというのが私たちの願いです。

飯田 引き続きまして、くすの木の田中さんお願いします。

田中 私たちは、精神障害者の自立支援をボランティアでできることはないだろうかと月一回勉強会を行ってきました。その一つの結果として、平成十一年四月見付本通りに福祉の店としての「ふれあい広場くすの木のパン店」を開店しました。現在、障害者七名とその家族及び常勤と非常勤のボランティアで運営しています。このような障害者の施設は県下で初めてのケースだそう、行政の援助を受けて成り立っています。私たちはくすの木を日常生活訓練の場として大切に考えており、対人関係の得意でない人も、みんな助け合つて接客に当たっております。この活動を通して、精神保健福祉の普及や啓発を進めていきたいと思っております。

飯田 二人のお話をふまえて、市長より磐田NPO交流センター設立に際して思案したこと等についてお話しただければと思います。

市長 精神障害者の社会参加は、今後の地域の具体的な課題です。そういう意味で、くすの木の活動は有意義だと思えます。またこどもの森さんについては、自分たちで建物を作られ力強さを感じました。やはり、食育の重要性、必要性をみなさんが認識しておられるということですね。それぞれに

NPOの多彩な活動というものを象徴しているような感じがします。

磐田NPO交流センター設立について、新しい市民参加のあり方というものもを考えていかなければならないと思つていた頃でした。従来は婦人会や青年団などの組織があつて、それぞれに住民参加が図られ機能していました。ところが、今は勤め人が多くなり、それらが機能しにくくなつてきています。それらに代わる新しい市民参加のあり方を改めて構築し直してみることが必要ではないだろうかと思つていました。

そのようなときに、NPOという新しい単袋ができたのです。新しいブドウ酒を新しい単袋に入れるという言葉がありすが、この新しい単袋に新しいお酒を入れること、つまり、この地域でもそういった市民参加の新しいあり方を考えてみるということは、非常に大きな意味があるのではないのでしょうか。それで、NPOの方々はこの地域でも是非いろいろな活動を盛んにしていただきたい、行政が側面から支援する場を作り、自主的に運営していくというところで、平成十二年九月七日にスタートしたわけです。一年半経つた今は、「作つてよかった」というのが率直な実感です。

これからの市民参加のキーワードは、「情報公開とNPO」。市民参加をもつと活発にするには、私どもが持つている情報をなるべく公開し、今の磐田はこういう状況ですよ、ということをご皆さんに知つていただく、理解していただくことです。もう一つは、市民の自発的な意思で活動しているNPOへの支援、この二つではないかと私は思つています。

飯田 ありがとうございます。現在、



磐田NPO活動推進協議会加盟団体が二十五、利用者団体が三十あるのですが、今後は両者が一体となつて一層努力していかなければならないと思えます。特に、ソフト面の充実や各団体とのコミュニケーション作りは、大きな課題です。そこで、大角さんに、達成感、問題点、要望などありましたら、お聞きしたいのですが。

大角 私たちの食育クッキングは子どもが参加するため、公共の施設では調理台やテーブルなどの高さが合いませんでした。そこで自分たちの施設を建てたわけですが、借入金を返済していかなければなりません。税制上の優遇措置ができる、私たちも活動しやすいです。

飯田 いわゆる財政支援というか、優遇措置のことですね。田中さんはいかがですか。

田中 障害者の社会復帰については、こういった社会状況の中では厳しいのですが、二人ほど仕事に就けたことがとてもうれしいです。そして、資金が

あればケースワーカーなどの専門職員を置き、いろいろ相談していくのがよいと思えます。もう一つは、将来のことを考え、グループホームなどの施設を増やしてもらえると幸せです。

飯田 助成金の面では厳しい状況ですが、ここはというところでは、市としてもぜひ考えていただけるとありがたいと思えます。

市長 交流センターへの感想をお願いします。

市長 自主的な方々ばかりなので意見もさまざま、運営にはいろいろな困難があるかと思いますが、小さな芽を大切にしていきたいと思えます。この一年半を通しての私の感想は、個々のNPOの活動が次第に盛んになってきたということです。

交流センターでNPO団体共通の講演やセミナーを行つてきたことで、支援だけではなく交流などの副次的な効果も生まれてきていると思えます。そして、今後も多彩な活動の支援をしていただきたいと思えます。継続は力なりと言われているので、今後もがんばつてもらいたいと思えます。

飯田 NPOには様々な活動がありま、それぞれがうまく交わつていくには、時間がかかると思えます。今年から交流センターも少しイメージ転換を図り、情報交換の面でも工夫していきたいと考えております。磐田市における拠点としてだけでなく、広域での活動を目指しながら努力していきたいと思えますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

木日は、どうもありがとうございます。

平成十四年一月十八日(金)
於 磐田市役所市長公室

所属団体の紹介

しよづかい

ネットワーク「いわた地球村」

代表：伊藤美智代（いとうみちよ）

事務局：磐田市天竜四一―二―三

TEL（三六）七四六五

設立：平成十二年九月

構成：五十名

（男二十五名・女二十五名）

活動目的・活動内容

私たちは、ネットワーク「地球村」の磐田地区活動を行っている。「地球村」とは、国連などが提唱している「地球と調和した社会（幸せな社会）」のことです。ネットワーク「地球村」は、「地球と調和した社会（幸せな社会）」の実現を求める人々のネットワークです。グリーンコンピュータ（環境にやさしい市民）が増えることで「幸せな社会」の実現を目指して活動しています。

参加・協力方法

どなたでも参加できます。一緒に活動してみませんか。グリーンコンピュータが増えれば社会が変わります。ネットワーク地球村の仲間になってください。
会費等 年会費五千元 地球村事務局まで連絡ください。

社団法人 磐田青年会議所

代表：理事長 川原 利彦

（かわはら としひこ）

事務局：磐田市中泉二八二―一

（磐田商工会館内）

TEL（三七）一六一六

設立：昭和三九年

構成：六十一名

（男五十六名・女五名）

活動目的

磐田市・豊田町・竜洋町・福田町（二市三町）を活動エリアとし、地域の産業・経済・社会教育等の向上を図り、地域住民相互の理解を深め、さらに国際的理解を助長し、地域社会の健全な発展に寄与することを目的としています。

活動内容

地域社会の発展に資する事業の立案及び推進
地域社会の指導者の養成及び青少年の健全育成
産業・経済・社会・文化・教育等に関する調査、研究及び講演会の開催
明るい豊かな地域社会づくりの推進



ホップ・ステップ・キャンパ

参加・協力方法

磐田市・豊田町・竜洋町・福田町内に在住もしくは勤務されている二十歳以上四十歳未満の方で、この法人の目的に賛同される品格のある方、一緒に活動しませんか。事務局にご相談くだされば、ご案内します。
会費等 入会金三万円
年会費十万円

21世紀センタースクウェア

代表：村上 浩（むらかみ ひろし）

事務局：磐田市今之浦二―一―十

TEL（三三）三二二五

設立：平成十二年十二月

構成：十四名

活動目的・活動内容

私たちは、青年会議所OBとして、市民活動の支援・磐田NPO交流センターの支援を活動目的に会を立ち上げました。情報収集・事務局などの形でみなさんの活動における様々な障害や問題を軽減するお手伝いをしています。

参加・協力方法

我々は、裏方です。そんな形に賛同してくれる方連絡ください。歓迎します。
会費等
参加資格や制限などありません。また、現在会費等もありません。

バイクボランティアネットワーク

代表：安部 寛（あべ ひろし）

事務局：磐田市鳥之瀬二二九―一

TEL（三六）一一六三

設立：平成七年十一月二十三日

構成：百四十名

活動目的・活動内容

・地域：磐田市を中心に中遠地区の各市町村
・予想される東海地震等の災害時にバイクの持つ機動力を生かし、行政及び支援機関と地域住民との間の情報伝達、並びに救援活動に協力する。
・年間を通して各種訓練を実施、県総合防災訓練及び市町村地域防災訓練に参加。

メンバー以外への親睦交流及びスキルアップの為、平成十二年よりバイクサッパ大会を開催している。

参加・協力方法

当該地域に在住し、活動の趣旨に賛同できる方（バイクの有無は問わない）
会費等 無料

いわた市民ねっとわあく

代表：三輪 邦子（みわくにこ）

事務局：磐田市国府台一四―三

TEL（三二）三六七〇

設立：平成十三年四月

活動目的・活動内容

市民の要望にに応じての子育て支援・子どもの健全育成・共生社会づくりなどを目指して、地域に根付いた活動に取り組んでいきます。

初年度は、いわた中泉コンソーシアムとしての活動を中心に進めてきました。これは、県教育委員会社会教育課の「子どもをはぐくむ地域教育推進モデル事業」を受託し、実施してきました。NPO交流センターを核として協議会（コンソーシアム）のスタイルをとりました。



大池でのやきいも会

第一回久保川たんけん隊 八月十九日
第二回久保川たんけん隊・グルーワーク 九月十五日
第三回ごみ拾い活動参加（雨天のため中止） 十一月十日
第四回やきいも会・ごみ拾い（大池北側） 一月十四日

これまでの活動により、参加者は子どもからお年寄りまで幅広い年齢層の参加がありました。参加者間の交流も図ることができたのではないかと思います。スタッフとしてさまざまなことがらを学ばせていただきました。ご協力いただいたみなさま、どうもありがとうございました。これからもよろしく願いました。

参加方法・会費
どなたでも参加できます。現在、会費もありません。

なぜNPOがまちづくりに つながるのか

NPOは、はじめにシステムがあつたわけではありません。その誕生のいきさつは、簡単に言えば、「社会的な意義を見つけた個人が、一人では微力なため、仲間を集めてボランティア活動をはじめました。より活動をしやすいするために専属の事務局を置き、さらに高いレベルでサービスを行うために組織力をつけてきました。組織がしっかりしてくると、運用資金も必要になってきました。その時、もつとも良い仕組みとして考えたのが、必要経費を収入で賄うシステム。それをNPOと呼ぶようになった」ということでしょう。そんな市民活動団体が、社会に本当に役立つことを目的とした時に、その必要性から生まれたいことなのです。それは、個人のおつばやきを集めて大きな力にして行くシステムといえるでしょう。

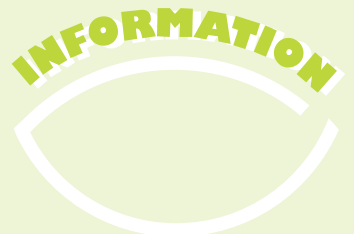
一人ひとりが自分の生活の連続としてまちづくりに乗り出すことが、まちを住み良くし、市民主体の社会的仕組みを実現する第一歩です。その一歩を踏み出すとする時、NPOはサービスを提供するだけでなく、社会に役立ちたいという人が社会参加をしていくための場も提供します。多くのNPOが、活動資金を募るためにチャリティコンサートを開いたり、ウォークラリーを催したり、シンポジウム、スタディーツアーや学習キャンプ、学びの場を提供したりしています。こうしたイベントへの参加は、そのNPOを知るよい機会であり、NPOを支援することにも

なります。また、そのイベントの中でTシャツ、アクセサリ、書籍、バッジなどユニークなグッズを販売しているNPOもあります。こうしたグッズには、NPOのメッセージが入っていることも多いので、その商品を使うことで、NPOの広報にも貢献できるし、NPOを財政的に支えることにもなります。そして、そのNPOの活動に強い関心を持つたら、ボランティアとして参加することも出来ます。

What's NPO?

なかなか時間がなくてイベント参加もボランティアもできないという人も、寄付という形なら貢献できます。無理のない範囲なら、これも気軽にNPOに参加する方法です。どのNPOも寄付を求めています。毎年決まった額を寄付する賛助会員（いわゆる議決権を持たないサポーター）という参加形態を作っているNPOもあります。企業からの大口の寄付はもちろんありがたいのですが、個人からの少額寄付が広く集まることを期待するNPOも多いようです。

このようにさまざまな形で社会活動に参加する方法があります。何かボランティア活動をしたい、何か社会に貢献したいと思っている人は多いと思います。そんな人たちに活動の場を提供するのがNPOです。多くの市民がそんな気持ちから様々な活動を実践していくことが、自分たちが自分たちの手で自分たちのまちをよくしていくことであり、まちづくりに結びついていきます。様々なNPOがあれば、それだけまちづくりが広がるわけです。



○ベッコウトンポ定置調査

主催 桶ヶ谷沼を考える会
四月二十九日(日)九時から
五月三日(金) 九時から
場所 桶ヶ沼 仮駐車場
内容 桶ヶ谷沼でのベッコウトンポ成虫の全個対数を把握するための調査
問い合わせ とんぼハウス
(二七)三八八八

○遠江国分寺史跡公園草取り整備

主催 遠江国分寺を考える会
四月二十一日(日)
九時から十二時まで
場所 市役所北側の国分寺史跡公園(金堂跡南側)
内容 国分寺史跡公園の除草作業
持ち物 草刈・除草用具
問い合わせ 事務局：大場
(二二)三三〇九

○小原流磐田支部創立二十周年記念 いけばな小原流展「花：2002」

主催 小原流磐田支部
四月四日(木)～七日(日)
十時から十八時まで
(五日 十七時まで)
(七日 十六時二十分まで)

場所 磐田市福祉センター
一・二階
内容 先生二百三十二人による作品の発表 いけばなを通じて文化の創造・発信
入場無料
問い合わせ 富田
(三三)八四〇九

○いわた地球村定例環境学習会

主催 いわた地球村
三月二十四日(日)
十三時二十分から十六時三十分
食品添加物について
四月十五日(月)
十九時から二十一時まで
環境ホルモンが体に及ぼす害はどんな病気をひきおこすか
五月十五日(水)
十九時から二十一時まで
オゾン層破壊によって引き起こす病気はどんなものがあるか
場所 NPO交流センター
問い合わせ 伊藤
(三五)七四六五

○広報誌編集スタッフ募集

年三回の予定で磐田市内の全家庭に広報誌を発行します。現在五名のスタッフで作成していますが、取材、紙面作りに興味のある方の協力をお願いいたします。
磐田NPO活動推進協議会
事務局(三六)一八九〇
(FAX共)



編集後記

磐田NPO交流センター通信も今回で、平成十三年度予定の三回を終了することができました。レイアウトなど担当してくれたプロ一名を除いて、原稿書きや取材活動など、まるっきりの素人の集まりで、編集長もおかず無償で作ってききました。広報いわたと同時に自治会のみなさんに協力頂き、市内へ全戸配布しましたが、いかがだったでしょうか。今回の市長との懇談会の中にも、二月十六日産業大学で開かれた「2010年あなたが生徒磐田セッション」でも、市長からこれからのキーワードは「情報公開とNPO」との発言がありました。市民のみなさんには、あまりなじみのないNPOということば、そして、県下初公設民営の磐田NPO交流センターの存在を多くの方に知ってもらうため、少しはお役に立てたと自負しています。来年度も新しい企画で発行していきたいと考えていますので、ご意見・ご要望など、どしどしお寄せください。 村上 浩

編集スタッフ
村上 浩・桜井俊文
(2センスクラブ)
山田龍次(あお空衆)
三輪邦子(いわた市民ねっとわあく)
飯田好治・磯部朝二
(ふれあい基金)
鈴木好夫(とらふぐはうす)